

第2回丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会 会議録

◇開 会 令和7年 8月28日(木) 午後 7時30分

◇閉 会 令和7年 8月28日(木) 午後 9時30分

◇会 場 春日福祉センター「ハートフルかすが」大会議室

- ・委員長 山川 茂則 ・副委員長 植木 和也
- ・出席委員 荻野 利直 笹川一太郎 三村 均 小西 和良
- 畑 義一 久下 拓朗 近藤 敏彦 山田 吉晴
- 穴瀬 一正 竹知 直弥 山本 昌彦 岸 麻記子
- 矢持 隆次 山内 勝司 原田 雅登 芦田 巧
- 谷口 大貴 近藤 賀絵 大原 茉央
- ・欠席委員 亀田真以子 井上 友海 足立 賢太 野口 恵里
- ・識見者 藪内文次郎 小田 敏治

〔事務局〕

- ・教育長 片山 則昭
- ・教育部長 山本 浩史
- ・学校教育課長 小森 真一
- ・教育総務課長 足立 安司
- ・教育総務課副課長兼企画総務係長 足立 真澄
- ・教育総務課学事係長 福垣 恵介
- ・教育総務課 河南 良次
- ・教育総務課 梅田 柚希

(足立教育総務課長)

それでは定刻となりましたので、ただいまより第2回丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会を始めさせていただきますと思います。

本日の資料につきましては、事前に送付させていただいていますが、手元に資料が無い方がおられましたら、お申し出ください。

前回会議と同様に、委員の皆さま方に、お願い事項がございます。1点目は、会議のご発言についてです。ご発言の際には、職員がマイクを持っていますので、お名前を発せられてから、ご発言くださいますようお願いいたします。前回の会議では、マイクを通さない意見等もございました。会議録の作成にも影響しますので、マイクを通したご発言にご協力をよろしくお願い申し上げます。2点目ですが、本日の会議は、公開をしております。また、報道関係者による写真撮影等がある場合もありますので、ご了承くださいますようお願いいたします。最後に3点目ですが、会議の終了時刻についてです。会場は22時に閉館となります。後片付けもありますので21時30分までには会議を終えたいと考えていますのでご協力をお願いします。

それでは、1の開会に入りますが、以降については、山川委員長の方でよろしくお願い申し上げます。

次第

(山川委員長)

1 開会

皆さんこんばんは。まだまだ暑い日が続きましてなかなか気の抜けない時期が続いていますので、お体に気をつけていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。それでは開会に移ります。

はじめに委員の方々よりご相談があったことについて、委員の皆さま方に共有させていただきます。先日、特定の団体から複数の委員のご自宅にこの検討委員会に関する要望書が届いたと報告を受けております。なぜ自宅の住所が分かったのか、委員をしていることで、こういった文章が送られてくることについて怖い思いをしているというご相談がありました。委員の個人情報について、教育委員会に確認しましたところ、会議録、あるいは最初に頂きました名簿には、お名前は記載されておりますが、住所などの個人情報

については公開されておりません。

この検討委員会の設置経緯を改めて説明させていただくと、春日地域市立小学校統合検討委員会の設置については、船城地区自治会長会から1学年1学級以上の学級編制にすること、統合も視野に入れた春日地域での検討委員会を設置することとした要望書が丹波市教育委員会に提出され、それをもって春日地域全体で船城小学校の今後の在り方について具体的な方策を協議するため検討委員会を立ち上げました。

丹波市教育委員会の第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針は、第1回の資料にもありましたように文科省をはじめ国の基準を踏まえ、大学の識見者や各地域自治会長会理事、保護者代表、学校関係者、公募による市民の皆さんで検討されて出来上がったものと認識しております。よって、その方針に従い委員会を進めており、今回このような形で書面が送られてきたことについて怖い思いをされている委員もおられ、会議において十分な意見や提案ができないという事態にもなりかねないと考えております。

この会議として、今後の対応については教育委員会と検討していきたいと思いますが委員の皆様につきましては、記載のあった連絡先に拒否を申出されてもよいと思います。警察に相談するのも一つの手段かと思いますが、ここで皆さんのご意見を聞いて、この会議としてこういう意見とか提案をいただくのはいいと思いますので、文書の送付先については検討委員会、あるいは委員長の私という形でさせていただきたいというふうに思っておりますが、皆さんのご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

皆さんのところに文書が届いていますね。ちょっと確認はしてないんですけども。はい。そしたら文書の送付先をこの検討委員会宛てにさせていただいて、よろしいでしょうか。

はい、では、そのように申出をいたしますので、今後ともよろしく願いしたいというふうに思います。

ほかに何か、ご意見ございますか、これにつきまして。ございませんか。

はい。そしたら、そういうふうに対応させていただきますので、また何かございましたら、ご連絡をいただきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

今日の2回目の検討委員会ですけれども、次第にのっとりまして、始めたいと思います。

次第

(山川委員長)

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

2 前回会議の主な意見

それでは2番目、前回会議の主な意見ということで、事務局の方からお願いいたします。

それでは資料1をご覧ください。前回、7月28日にお世話になりました検討委員会の会議記録、そして資料をつけております。

まず内容としまして、この検討委員会の設置要綱・傍聴規則を事務局より説明させていただきました。そこで委員からの意見としまして、「自治会長が役員改選をした場合、委員はどうなるのか」といった意見があり、それにつきましては「自治会を代表する者」と要綱で定めておりますので、委員は必ずしも自治会長でなければならないということではありません。ただし、委員が交代される場合は引き継ぎをお願いしたいということ、また自治会長とは別の方が委員となられた場合は、自治会長が集まられるときなどにこの会の状況を説明いただけるとありがたいと思います。

また、別の意見としまして、「委員長、副委員長はどういった役割をするのか」という意見があり、会議の進行や、会議の前には事務局と打合せを行うということを回答させていただきました。

次に、2ページに移りまして、正副委員長を互選いただきました。この選出につきましては、「委員長、副委員長のどちらかが自治会で、どちらかが保護者がよいと思う。できたら委員長は自治会がよいと思う」というような意見の下で選出をいただきました。

次に、事務局の説明としまして、丹波市立学校適正規模・適正配置方針について概要の説明、丹波市の人口推移、小学生数の推移状況の説明、船城地区における船城小学校の在り方に関する検討結果の概要の説明をさせていただきました。いただいた意見としましては、「船城小学校の人数を見てるとかわいそう」というような意見、「少しでも早く黒井小学校と一緒にしてあげたいと思う」、「また船城小学校のことだけではなくて、春日地域全体を見て考えるべきではないか」、「この検討委員会は、どこの段階まで進めていくのか」といったような意見をいただきました。3ページの一番上には、「船城小学校と黒井小学校の統合というところを前提するのであれば、春日地域全体の話はもう少し時間をかけてもよいのではないか」というご意見や、また「喫緊の課題をまずやって、春日全体の話は数年かかると思うので、ちょっと置いておいたらどうか」というようなご意見をいただきました。

今後の進め方につきましてもご意見をいただきました。次回は、黒井小学校と船城小学校の統合の方向性に関する意見交換とする。また、春日地域全体をどうするかということについても意見交換を行う。事務局は、過去の統合経緯に関する資料を準備する、ということになりました。主な意見としましては、「次回のテーマは、船城小学校と黒井小学校の統合というテーマに絞ったらどうか」というご意見、「次の会議では、まずゴールをどこに持っていくのかということを決めなければいけないと思う」、「ほかの小学校も子どもの推移を知ってもらって、自分たちの学校も今後考えていくべき」、「この会議で丹波市の小学校の未来を一緒に考えていければと思う」などのご意見がありました。また、「春日地域全体の話をしていければ、この検討委員会を立ち上げた意味もあると思う」というような意見をいただきました。次のページになりますが、見出しの委員として始まっているところの発言で、「船城地区と黒井地区だけで集まって協議することはできないのか」といったような意見をいただいております。また「市島地域や春日地域の例を踏まえて、具体的なスケジュールを決めていけたらいいと思う」というような意見もいただきました。

7ページ、会議のまとめとしまして、黒井小学校と船城小学校の統合の方向性に関する意見交換会とする。また、春日地域全体をどうするかということについても意見交換を行う。事務局は、過去の統合経過に関する資料の準備をする、ということで第1回は終わっております。

以上で、前回の会議録の報告になります。

(山川委員長)

ありがとうございます。今報告をいただきました意見のまとめについて、補足といいますか、何か訂正したいという方はいらっしゃいますか。いらっしゃいませんか。

(なし)

次第

(山川委員長)

3 報告・協議事項

なければ3番目の報告・協議事項のほうに入りたいと思います。事務局お願いいたします。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

資料2をご覧いただきたいと思います。まず、青垣地域での統合の協議の経過を説明したいと思います。青垣地域では、まず「青垣地域のこれからの教育を考える会」を設置されました。これからの教育を考える会というのは、

第1次の丹波市立学校適正規模・適正配置方針に基づいたものでありまして児童生徒数の推移のレベルに応じて、考える会を設置するという基準がありまして、その基準に基づいて設置された会議になります。この青垣地域のこれからの教育を考える会の設置において、全14回の会議を経て、丹波市教育委員会に提言を提出いただきました。設置された期間は、平成22年の9月から24年の3月までの間となっております。委員としましては、自治会、認定こども園の職員の方、小中学校教職員、氷上西高等学校教職員、認定こども園保護者の方、小中学校保護者の方、アフタースクール職員の方などで、総勢29名となっております。

この会での主な協議内容としましては、青垣地域の児童生徒の現状と推移、学校の適正規模について、新しい学校運営について、姫路市・丹波篠山市の取組について、また住民学習会の実施もされております。「学校統合検討部会」、「小規模ネットワーク検討部会」、「小中一貫教育検討部会」などを設置されまして、詳細事項を協議された結果、丹波市教育委員会へ提言いただきました。下の段に移りまして、その提言内容を抜粋しております。

(1) としまして、青垣地域における学校の適正配置に関すること。ここで、できるだけ早い時期に小学校の4校を統合することが望ましいと申し出ていただいております。統合までの期間については、小規模校のネットワークの長所をいかした取組も展開できるよう考えていく必要がある、というご意見をいただいております。

(2) としまして、青垣地域における新しい学校運営に関すること。統合された小学校を青垣中学校と同一敷地内に設置し、小中一貫校とするのが望ましい。地域と共に歩む学校を学校の特色とした学校運営を行う必要がある。

また(3) としまして、青垣地域における教育力の向上に関することについて提言をいただいております。青垣地域全体で新しい学校を核とした特色ある地域活動を展開していくことが重要である。今後の学校適正規模・適正配置によって、市内の地域に先駆けて特色ある学校づくりを進めることが新たな地域づくりの創造となり、青垣地域全体の活性化につながることを期待するとして、提言いただいております。

次のページに移ります。4ページになります。

その提言を受けまして、「青垣地域市立小学校統合準備委員会」の設置をしております。この準備委員会で、青垣地域市立小学校の統合の是非を協議しまして、青垣地域の4小学校を平成29年4月に統合することが決定されました。また、統合に向けて校舎の在り方や校名、通学方法などをこの準備委員会で決定されました。設置期間は平成24年の10月から平成29年の3月までとなっています。委員は35名で記載のとおりとなります。主な協議内容としましては、統合の是非について、また統合校舎の在り方、統合の時期や校名、校歌、校章、通学方法について、これらのことを各分野の検討部会で検討し、詳細を協議いただきました。

その青垣地域市立小学校統合準備委員会での主な協議事項をまとめて記載しております。青垣地域4小学校を1小学校に統合すること、統合時期は平成29年4月に統合することなどを決定いただきました。また、校舎の場所、校名、通学方法について決定いただいたということになります。こちらが青垣地域での統合協議の経緯になります。

5ページ、6ページからが市島地域の統合経緯になります。

「市島地域のこれからの教育を考える会」を設置しまして、全19回の会議を経て、丹波市教育委員会に提言書を頂きました。設置期間は平成24年9月から平成30年の2月までとなります。委員は全員で27名、(1)から(5)のとおりとなります。主な協議内容としましては、市島地域の児童生徒数の現状と推移、学級・学校の適正規模について、新しい学校運営について、また校区別の懇談会を実施されております。また、小中一貫教育校の

協議を経て、丹波市教育委員会へ提言書を提出いただいております。

提言内容を抜粋したものが、下のページになります。

(1) としまして、市島地域における学校の適正配置に関することで、できるだけ早い時期に5小学校を統合することが望ましい。

(2) 市島地域における新しい学校運営に関することで、ここでは現在も取り組まれている地域の教育資源を活用して地域とともに歩むことを学校の特色とした学校運営を行うことが大切である。

(3) 市島地域における教育力の向上に関することで、市島地域全体で新しい学校を核とした特色ある地域活動を展開していくことが重要である。

この3点を提言書としてまとめていただいております。また市島地域につきましては、令和元年10月に「市島地域のこれからの教育を考えるフォーラム」を開催しまして、市島地域のこれからの教育を考える会の提言内容について説明する会を設けました。

このフォーラムについては、様々なご意見をいただきましたので、市島地域の「小学校統合検討委員会」を設置する流れになっております。市島地域市立小学校統合検討委員会では、市島地域小学校の統合の是非を協議しました。その結果、統合に向けて協議を進めることがこの会議で決定されております。設置期間につきましては、令和2年の6月から令和3年の2月までです。委員につきましては、識見を有する者、自治会の代表者、小学校保護者の方、認定こども園の保護者の方、小学校教職員、認定こども園教職員、全員で28名の構成となっています。主な協議内容として、地域別でグループワークをしていただきまして、市島地域小学校の統合の是非について協議をいただきました。

統合することが決定した後に、「市島地域市立小学校統合準備委員会」を設置しております。この準備委員会において小学校の統合形態としまして、竹田・前山地域で1校、吉見・鴨庄・三輪で1校ということが決定されております。また統合に向けて、校舎や校名、通学方法など具体的なことを検討いただいたのが、この準備委員会になります。設置期間としましては、令和3年6月から現在までとなっており、令和8年の市島小学校の統合に向けて継続しております。委員としましては29名、全体会での委員の人数です。

主な協議内容としまして、統合の時期や校舎、校名、校歌、校章、通学方法などの決定をいただきました。また、竹田・前山地域部会、吉見・鴨庄・三輪地域部会を設置し、具体的な内容は地域部会で決定いただいております。

その部会での主な協議事項、決定事項などを次にまとめております。

竹田・前山地域部会では、竹田小と前山小を令和6年4月に統合するということを決定いただきました。また、校舎の場所、校名、通学方法についてもこの部会で協議いただいております。その協議の結果につきましては全体会での承認事項も含んでおります。

吉見・鴨庄・三輪地域部会での主な協議事項・決定事項としましては、令和5年4月に吉見小と鴨庄小学校が統合することを決定され、また三輪小学校と令和8年4月に統合するということを決定いただいております。あわせて、校舎の場所と校名、通学方法についてもこの部会で協議いただいております。一部内容については全体会での承認事項も含んでおります。

以上が、青垣と市島地域の統合協議の流れになります。

引き続きまして、資料3をご覧くださいと思います。資料3につきましては、今説明した流れを抜粋してまとめたものになります。青垣地域においては、「青垣地域のこれからの教育を考える会」、この会からの提言を受けて「青垣地域市立小学校統合準備委員会」を設立しております。この統合準備委員会におきまして、統合の是非などを協議して決定しております。

市島地域につきましては、「市島地域のこれからの教育を考える会」の提言を受けまして、その後、「市島地域市立小学校統合検討委員会」を設置し、

この検討委員会において統合の是非を協議いただき、統合することに決定しております。検討委員会で統合することが決定された後に「市島地域市立小学校統合準備委員会」を設置しまして、またその準備委員会の中には地域部会というものを設置しまして、統合の形態であるとか時期、校舎、校名、通学支援などについて協議いただいています。

春日地域においては、今現在、船城地区の自治会長会からの要望を受けて「春日地域市立小学校統合検討委員会」というものを設置しているという状況になっています。協議の内容としましては、統合の是非について協議をいただいているところでございます。

また参考までに、市島地域の小学校統合に係る整備内容につきまして、説明いたします。

吉見・鴨庄小学校の統合につきましては、スクールバスの購入でありますとか、引っ越し業務といったことがありまして、統合が決定されたのが令和3年11月になりますが、統合年度は令和5年4月となっております。また竹田・前山小学校の統合においてもスクールバスの購入であるとか、バスロータリーの整備、引っ越し業務など、主な整備内容を記載しているとおりですが、統合年度は令和6年の4月となっております。吉見・三輪小学校につきましても、令和8年4月の統合に向けて協議を進めているところであります。

統合に要する期間につきましては、校名の変更の有無やハード整備の有無など、諸条件により異なっております。市島地域の例につきましては、統合の決定から統合までに、おおむね2年から3年の期間を要しているというところになります。

続きまして、資料4の説明をさせていただきます。

前回の会議で、区域外就学制度について質問が出ておりましたので、資料を加えさせていただいております。今、丹波市における区域外就学の基準や期間を2ページのところでまとめています。

裏面をめくっていただきまして「学校選択制」というものが別にあります。丹波市のほうでは対応しておりませんが、学校選択制は、保護者が希望する学校をある程度自由に選べるという制度になります。その種類としまして、自由選択制でありますとか、ブロック選択制、隣接区域選択制、特認校制、特定地域の選択制度というものがああります。またこの制度についてご確認いただきたいと思います。

以上、事務局から簡単ではございますが資料の説明とさせていただきます。

(山川委員長)

はい、ありがとうございます。各地域の今までの状況を説明いただきましたけれども、資料のほうは皆さんのお手元に届いておりましたのでお目通しいただいていると思うんですけども何かこれについてご意見ございますか。

(委員)

貴重な会議なんですけど、何点か質問事項があるので教育委員会のほうで答えいただけたらありがたいなと思うんですが、よろしいですか。

実は今回、この資料を頂く前に丹波市のホームページにある1番の資料を読んでいまして、そこで疑問点は何点かあったので一応、今回資料の配られた内容をみると確かに合っているんですが、すごく表面的なことしかなくて、なぜこうなったのかというのが分からないこともあったので、それをちょっと聞かせてもらいたい、分からないので教えていただきたいなというのがあるんですがちょっと時間いただいてよろしいですか。

今回、市島の6ページのほうで、まず「市島地域のこれからの教育を考える会」で提言を出して、フォーラムをしました。様々な意見があったので検討会をしましたと書かれてあるんですけど、そのフォーラムの内容の一覧があるんですが、かなり反対の意見が多くて。大体、反対する人はフォーラム

に来られるので、ずっと項目を読んでいたら、賛成される方より3枚か4枚は反対意見がある。そういうことがあって町全体で提言されているのに、このままでは統合は無理なので検討委員会をされた。今回これも終わった後、多分地元説明をしないといけないと思うんですが、逆にそういうところで反対意見が出てくると思うんですね。私の質問は、検討委員会が半年間で4回目で多数決で決定してるんですけど、その後、皆さん反対だった人は賛成したのかなっていうのがよく分からなくて。要するに検討委員会は、統合する人ばかり集まっていて、投票の結果23対3で統合が決定するんですけど、その後反対の方はどうされたかというのは載ってないので、その辺の動きを教えてくださいなと。私たちのほうでもね、なかなか苦労すると思います。まして、うちは船城しかやってないので、ほかの地区から「そんな聞いてないで」という意見を言う人はいると思うので、その辺の感覚はどうやったんやろうなということを教えてもらえたらありがたいなと。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

今、言われましたとおりフォーラムでの意見は賛否両論ありまして、再度統合の是非について考えるために立ち上がったのが市島地域の小学校統合検討委員会というものになります。最終的に今、言われたように検討委員会で統合するかどうかについて、検討委員会の中で委員が投票をされました。その投票の内、賛成・反対がどういった割合だったのかというのはちょっと今資料を持ち合わせてないので詳しいことはお答えしかねますが、その投票の結果によって賛成のほうが多かったため統合することが決定になっております。反対された意見がどうなったのかということではありますが、反対よりも賛成のほうが多かったため決定という方向に進んだということです。

(委員)

その結果を一般の方は納得されたのかという。フォーラムで結構、反対意見があったので。私たちも多分そういうことをしていかないといけないと思うけど、その辺が議事録のほうにもあんまり書いてなかったの。これから私たちも苦労する、苦労していかないといけないので、そういうのは何かあったら聞きたいなという。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

統合につきましては、やはり言われるとおり、賛成の意見もあれば反対の意見もあると認識しています。絶対にどちらか、賛成が100で、反対がもう全くなしというような結果は望めないと思いますが、大多数の合意をいただいて、市島地域の統合が決定されたということで認識しておりますので、多くの人の賛成意見をもってこの統合が進んだと考えております。

(委員)

分かりました。それとほかの質問で、準備委員会の段階から教育委員会のほうで、「統合準備委員会だより」を毎回出されていて、あれがものすごい見やすいですね。会議ごとに「この会議でこう決まりました」って、1ページにまとめられているんですけど、逆に言うたら、検討委員会でも作ってもらえたら私たちも分かりやすいんですが、ああいうのは作られないのかなと。皆さんも見てもらったら分かるけど、私も市島の資料を見たときに1回の会議の内容を1ページでまとめられているんです。この会議でこれ決めましたという。それで「あれ、おかしいな」と思ったら議事録を見に行って、何でこうなったんやろうと思って調べたんですけど。それがものすごく見やすい「統合準備委員会だより」を毎回作られていたので、やっていただいたら。今日の議事録、これ1回の議論をガーっと見たら分かるけど、それが1ページでまとめているんですよ。そういうのをしていただいたらありがたいなというふうに思いました。これは希望です。

それと、吉見と鴨庄が統合するときは吉見小学校になってですね、それで前山と竹田のときは、名前を変えて竹山小学校にしている。吉見小は三輪小

と統合するときには市島小学校になっている。もともと市島は、考える会から市島全体で1校制を目指していた。今回、資料を見ている、1校にするのは大変やから、とりあえず2校にする。これは決着じゃないでしょうね。ということで市島小学校という名前になると、そのうち竹山小学校はなくなって市島小学校になるんじゃないかなと思うので、それやったら最初から市島小学校にしなかったのかなと思い、名前の決め方が曖昧でよく分からない。今後、私たちも統合で、名前を決めるときにちょっとその辺を考えないと、何回も名前が変わってしまうので。昔の春日中学校みたいに、春日中学校大路校舎、明德校舎みたいにしてしまうのも一つの手かなと。春日小学校〇〇校舎にしたら全員春日小学校出身だし、そういうのも何か考えていかないと小学校名がころころ変わっていくのは、ちょっとおかしかったかなという。その辺、僕らとしたらよく分からないので、教えていただきたいなと。春日もそれが問題になると思うし、黒井も名前を変えるかどうかによって全然アンケートが違うので。もしかすると黒井小学校もなくなるかもしれないのでね。その辺、また会議の中で教えていただきたいなと思っています。特に、議事録がものすごくうまくまとめておられたので、大変参考になりました。ありがとうございます。

(委員)

青垣と市島の統合準備委員会の委員のメンバーですけど、春日地域とちょっと違う印象を受けます。先ほどおっしゃいましたとおり、春日地域の小学校統合検討委員会は船城地区の自治会長会の要望により発足したと思うんですけども、ほかの青垣と市島に関しましては、どういう経緯で発足したか分かりません。ただ、委員のメンバーで小中学校の教職員と認定こども園の職員が入っていて、春日地域は入っていないのは、どう違うのですか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

教職員の方々につきましては、例えば、校舎や校名、通学支援など、そういう統合に向けた具体的な協議に入る段階では入っていただく必要があると考えております。今の段階は、まず統合の是非について話し合うところでありますので、是非については地域の皆様、保護者の代表の皆様で協議いただきたいと考えているところです。

(山川委員長)

今回、春日の場合は、船城地区の自治会長会からの要望という形になります。統合検討委員会ということで、これが準備委員会になれば、そういうような方々が必要かなというふうに思います。よろしいですか。はい。ほかにございませんか。

(委員)

先ほど、冒頭に委員さんから意見があったことについて思ったことを言わせてもらいます。市島の分ですね。反対意見が多かった、賛成のほうが少なかったということを言われたんですけど、詳しいことは分からないんですけど、それでも検討委員会をされたというのは、意見が多かったということで、反対する人が多かったとは限らないのかなというところで統合検討委員会を持ち上がったのかなと。採決をとったら変わったのかなと。意見の数が多いというのと、反対する人が多いということではないかなというふうに私は思ったので私の私見ですけども、言わせてもらいます。

それから採決するとき、1回目のときにあったかもしれませんが、全員が賛成やったら決定とか、多数決で決定とかいうのを採決までにあらかじめ決めてからやったらどうかというふうに思いました。

それから、鴨庄小と吉見小が統合して、竹田小と前山小が統合したと。何で竹田と前山は名前が変わったのに、吉見と鴨庄は名前変わらないのかなと、早く統合するためなのかなと、鴨庄が早く統合したいというようなことで名前を変えずに統合されたのかなというふうに思いました。それと、三輪小

が後で来るから名前を変えないでおこうというようなことなんだというふうに２段階で考えると、なるほどと思いました。早く統合するなら名前を変えたり、校歌を変えたり、校章を変えたり、通学方法についてもある程度簡略にすれば統合は早くなるしというところと、学校の名前とかそういう事項があるんだなというようなことで、先ほどのご意見で感じたしだと思います。

(山川委員長)

はい、ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

なければ、次は今日のメインになります。前回の意見の中で船城小学校と黒井小学校との統合に向けた意見といいますか、その方向に持っていてもいいのかなと思うんですけども、その辺のご意見は、いかがでしょうか。

ご意見ございませんか。もし船城小学校と黒井小学校との統合を検討することになってくると、春日地域全体のことも考えなきゃいけないんですけども、まずは黒井と船城という方向になると思うんです。そうなってくると、全体会という形ではちょっと器が大きいかなというふうに思います。黒井地区と船城地区との話に持っていてもいいということでしょうか。

(委員)

黒井地区と船城地区で地域部会という形で話し合ったとしても、最終的に資料３に書いてあるように、統合の是非というのはこの全体の会で決定するというところでよろしいか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

適正規模・適正配置方針に基づきますとおり、統合については、町域全体で協議することとなっております。また、それを受けて前回の会議で検討委員会の設置要綱を確認いただいたところです。委員が言われたように黒井地区と船城地区で詳細を話し合っていたいたしまして、最終の結論については検討委員会全体の皆様の会議の下で決定していただきたいと思っております。

(委員)

物理的に考えて、やっぱり近いところから黒井地区との協議になると。進修・大路・春日部はちょっと離れていますので、その黒井地区と船城地区で、地区どうしである程度合意形成をしておいた上で、そういう材料がないとこの検討会でもおそらく是非を考えられないと思うんです。黒井地区と船城地区のことは、その地区の人がよく分かってらっしゃると思う。地域部会で統合を決めてしまうんじゃないくて、話し合っ、こういうふうに進めていけそうだという方向をこの検討委員会に持ってきてもらって、この検討委員会では是非を問いましょうという流れがいいかなと思うんですけども。

もちろん船城と黒井はやっぱり無理だとなったら、また別に考えていけないといけない。春日町で一つにしようとか、そういう検討になっていくと思うんですけど。前回の１回目で、船城地区の保護者からの声として、少人数からいきなり大人数の中学校に上がったときに引きこもってしまったとか、そういう生の声を聞いて皆さんでそういうふうに進めていこうとなったので、それがスムーズかなと思います。

(委員)

議事録にも載っております４ページ。事務局のほうから、「統合するかどうかという協議をまずしていただきたい。船城小学校をどうするか、ほかの小学校をどうするか、その協議の後に必要なことを順次決めていきたい」と書いてあった。まず統合するかどうか、この統合をどう解釈するか。

(山川委員長)

船城小学校と黒井小学校の統合の方向で進めていくという形ですね、まずは。この全体会の場で、地域部会で検討してくださいという了解の下で黒井小学校と船城小学校で地域部会という形。地域部会の形になりますけども、そちらで話を進めていただいて、それで統合という話になればいいのですけ

ど、いやそれはちょっと無理やろという話になってくると、今度やっぱり全体会へ持ち上がっていただいて、もう一度検討し直すという形になるのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

(委員)

今、委員長が言われましたように、まず黒井小学校と船城小学校の検討を協議する場を持って、その後、この全体会で当然、結論を出してもらおうという説明を受けて、私もそれでよいのかなと。そういった形で進めていただくということは、ある程度想像もしていたことです。その中で、この全体会の部会として、地域部会として、黒井小学校と船城小学校の統合検討について協議しようということで、部会を立ち上げるという形で進めていただいて、あと全体会については当然、春日地域全体のことを考えていただかないといけないと思うんです。やっぱりそれを置いて、ということにはならないと思うんです。地域部会では黒井小と船城小の統合を検討し、全体ではやはり春日地域全体を検討していただく。その中で、地域部会で結論が出たら、この検討委員会に報告を上げるというようなプログラムで進んでいったらどうかという思いはしております。ありがたいなと思っております。

(山川委員長)

今、委員が言われましたような形で進めていければと思うんですけども、地域部会という形で黒井地区と船城地区の統合検討委員会という形について、いかがですか。

(委員)

今の話を聞いている中で、地域部会で統合を検討していくという形でいいですか。決定として進んでいくということではないということですね、よろしいですね。はい。地域部会が仮にできたとして、そこで話をしながら我々としても全体に下ろしながら話をしていきたいなというふうに考えているところです。そういう流れで合っていますか。分かりました。

(山川委員長)

黒井地区も地域部会を立ち上げることで、各黒井地区の住民にいろんなご意見を聞きたいなと思っております。

(委員)

資料3の青垣地域、市島地域の統合経過について、これ非常に分かりやすいなと思って拝見していました。今の話からするとですね、市島地域と春日地域というのは、出発点はちょっと違いますけど今の春日地域市立小学校統合検討委員会があるというのは、これは同じ形になっていますね。市島では統合の是非が決定されて、その後、準備委員会というふうな流れになっています。今の話を整理する意味で、この図をちょっと借りたいなというふうに思ったんですけど、この場で統合する、いわゆる船城と黒井が統合するということを決定するのか、先ほどの意見を聞いていると、ここで決めるんじゃないくて、ここから派生した地域部会というのをつくって、そこで統合の是非について決めるという、そういう流れでしょうか。そこのところだけ、はっきりさせておきたいなと思って。

それで、そのところをちょっとはっきりさせるために市島の場合は、統合検討委員会で統合をするということを決定した後に、準備委員会ができています。今の流れからすると、この統合検討委員会で統合の是非について決定するのかと思っていたんですけど、先ほどからの話を聞いてみると、最終的な結論というのはこの検討委員会で決めるんですけど、その前に地域部会というものを立ち上げて、そこで少なくとも黒井と船城の間で統合しようということを予備的に決めて、それを統合検討委員会の全体に持ち上がって、最終的に決定するという流れというふうに理解をさせていただいたらよろしいでしょうか。

(山川委員長)

事務局どうですか。

(足立教育総務課長)

今、皆さんに議論していただいた内容も含めてではございますが、先ほど説明しましたように、統合の是非について全体会で決めていただきたい。ただ、今の地域部会といいますか、そういうのをつくったらどうかという意見の中で、まずは船城と黒井で統合するのかもしれないのかという方向性を協議いただいて、その結果をもって全体会に上げていただいて最終決定はそこでしていただくというような流れかなというふうに思っております。

(山川委員長)

どうですか、今ので。

(委員)

承知しました。

(委員)

前回、黒井の委員からアンケートを採るということを言われていたので、それを9月に入ってから配られるということだったので、ここで採決するのは難しいかなと思って今日参加したんですけども、それが実際されるのか、されないかとか、黒井の意見もまとめるようなことを自治会の方も言われていたので、そこらのこともあって統合検討委員会の中の地域部会というのが、市島とは違う形ですけども、一段階前で地域部会ができるというのだったらそれはそれでいいのかなと。いやいや一刻も早く船城地区の方が急がれるんだったら、黒井地区とここでお話されて採決してくれというようなこともあるのかなと思います。

(委員)

先ほど委員からありましたとおり、前回のときにアンケートという話をしておりました。その後、教育委員会とか有識者の方と話をしながら考えておったんですけども、その後、黒井のPTAの役員会がありましたので話をしておりました。今、アンケートを出すと恐らく、黒井に偏ったアンケートになってしまう可能性があると思います。

そのときにどうしようかなというふうな話を考えておったんですけども、その後、船城の保護者会長や認定こども園の保護者会長とお話をしながら、船城では保護者説明会を行われたというふうな話を聞いております。おそらくなんですけども船城地区の自治会の方は統合っていう話は恐らくご存じなんですけども、黒井地区の住民の方はほとんどがこの話に関しては新聞を見ない限りはご存じない方が多いんじゃないかなというふうに思っております。なので、いきなりアンケートを採ってしまうとちょっと偏った考え方になるのかなというふうに思います。船城地区の方と話をしていたのは、黒井のPTA、保護者会の方と認定こども園かすが花の子園の黒井地区の保護者に集まってもらって、教育委員会にも寄っていただいて、そういう説明会があってもよいのかなというふうに思っております。その後どちらがアンケートするのか、私らがするほうがいいのか、それとも教育委員会に黒井寄り、船城寄りでもないアンケートを作ってもらって意見を出すほうがいいのかというところも考えているところであります。

合併をすることが反対ということではなくて、船城の子どもさんからしたら早く合併したほうがお友達もたくさんできるし、中学校に上がったときの不登校の問題等もあると思うのでよいとは思いますが、黒井におきまして、ほかの保護者の方であったりとか、知り合いの先生らと話をしておりますと、仮に25人のクラスで10人増えて35人になった際に果たして今までどおりの教育が受けられるものかという話も出てまいりました。25人ぐらいが適正ぐらいかなという、知り合いの先生のそういう話も出ていたので、そういったところを考え始めると、自分たちの子どもによりよい教育ができるのかというところも少し疑問にも思うところです。

なので、ちょっと本当に段階を踏みながら検討してもらいたいというのは必要になってくるのかなと思いますし、私としてもどうしてもこの話をしてしまうと、今もまた黒井寄りの意見が出たりとか、船城の立場であったりとかすごく難しいなというふうに考えているので、今おっしゃったとおり地域部会をして、保護者説明会をしてという段階を時間はかかりますけどもそういった形でやってもらわないと、私1人やほかの意見で決まってしまうとなるとまた難しいところもあります。くどいようですけれども少しお時間いただきながら、じっくり考えていけたらというふうにPTAを代表して私の意見とさせていただきます。

(山川委員長)

はい、ありがとうございます。私ども黒井地区代表としても各自治会長には報告、あるいは連絡はしておりますけども、その自治会から住民全てに行き渡っているかというのはまだ確認ができておりませんので、この統合検討委員会の地域部会が立ち上がったときに地区の皆さんにご相談ができたかなというのは考えておりました。市島は統合が決まって準備委員会という形になっておりますけど、ほかの地域と違うので、地域部会という形の統合検討委員会でもいいんじゃないかなと思うんですが、どうですか。

(委員)

船城と黒井のほうで部会を開いていただく、統合を検討していただくというのは全く問題ないと思っています。残りの3校というか、要するに青垣も市島も全体でやはり最終的には1校制で、小中一貫が一番好ましいという地域がたくさんある中で、春日はどうするんだというのは答えだけは持たないといけないなと。1校にするとかしないとかじゃなくて、そういうのを検討したうえで、今回は黒井と船城はとりあえずこうしてもらいますというほうが説得力があるし、春日の将来も考えないといけないので、そういうことを考えると遅くなるから船城と黒井は別にやってもらったらいいけど、春日全体で将来をどうするかというのは考えておいて、ある程度答えを持っておかないと、住民に説明したときに、「大路は置きっぱなしか」と言われたら「検討してません」では済まないのです。そういうことも含めて、この全体の会議は継続してやっていただきたいなというふうに思います。

(山川委員長)

はい、ありがとうございます。全体のこともね、どういう方向に持っていくかということも必要かと思うんですけども。皆さんの意見をいただきたい。

(委員)

青垣地域と市島地域、春日地域の違いというのは、やっぱり青垣と市島は教育を考える会、フォーラムとか、そういうことを数年間やられて、ある程度知識を得られた状態で検討委員会をされています。ただ、正直僕もほとんどそういう予備知識がない状態で、例えば、小中一貫がいいとかいうのは言えないので、その上でたまたま今回船城地区は2年間いろんな勉強会とかヒアリングをされてこられて、検討委員会があって要望書となっているので、ある程度知識はあると思うんですけど、全体を考える上で、ここのメンバーで小中一貫がいいとか、全体がいいというのはなかなか難しい。福知山の夜久野町は小中一貫で9年制。すごい年月をかけて1回でやったんです。だからフォーラムですとか教育の本来、先ほど委員さんが言われたみたいに人数が増えればいいのか、そういうことを知った上で進めていかないと、なかなかその是非を問えないんじゃないかなと思うんです。そこはもちろん、せっかく検討委員が立ち上がったので今後、言われたみたいに検討委員会を継続していきながらやっぱり勉強、知識、あといろんな人の意見を聞いた上で進めていければいいかなと。将来的にはこの人数を見たら、一つでやったほうがいい可能性もあるので、その辺りは継続していきながら結論を焦らずに進めていければと思います。

(山川委員長)

市島は、市島地域のこれからの教育を考えるフォーラムというのをされてと思うんですけど、春日は春日全体、もちろん船城、黒井の地域部会もありますけども、春日全体を考えるとやっぱりこういう勉強会・フォーラム的なこともやらないとちょっと市民の皆さんにはなかなか行き届かないのかなと思うんですけども。そういうふうな方向性も必要かなというふうに思いますけども、いかがですか。

(委員)

先ほど、船城・黒井以外の今後のことも考えて、検討委員会を継続してはどうかということでした。それは私も賛成です。近い、3年ぐらいすると10人を切る学級が黒井・船城以外にも出てくるというようなことですので、継続的にというようなことで、例えば、最低年1回は各学校の人数の推移とかを教育委員会を交えて協議するという統合検討委員会は実施する、年度末なり年度初めにするというようなこと、解散はしないで。市島については、統合準備委員会が継続中という形になっていますけれども、春日については統合検討委員会を継続というような形がいいんじゃないかと思います。

今、例えば、船城と黒井を除いた各小学校の統合について、また別の地域部会を開こうといっても今はまだその機運がPTAで高まっていませんので、それをこちらも別部会、地域部会をつくって定期的にやろうと言われてもなかなか盛り上がりませんところもあつたりします。これを切ってしまうとまた立ち上げるのは大変なので、統合検討委員会は継続的にするというようなことで、定期的にその状況は把握しておいて、いつ大きな変化が来るかもしれないので、そうなる前にしようという機運が高まったときに全体で一つになるのか、まずは二つになるのかみたいな形でやっていったらどうかというふうに感じております。

(委員)

多分、事を早く進めてしまうとあまりよくないなっていう、じっくり検討しなきゃいけないなという流れだと思うんですけども、そうすると今、船城小学校に通っているお子さんたちが、とても今、宙ぶらりんな状態で、学習の機会、いろんな機会を逃しながら6年間を過ごしてしまうのが見えているので、もう合併しますというのを待つよりも前に一緒に何か活動したりとか、交流したりとか何かできることがあればと思います。この検討委員会は長くなると思うので何かしてあげることはないのかなと思います。何かもうちょっと、今の子どもたちをフォローする何か、合併が決まるまでの間に何かフォローできることがあったらいいなと思います。

(委員)

地区の子供会の会長をしているんです。夏休みが明けたら子供会の子らに言おうと思うんですけど、子供会のイベントをするときに、例えば、船城の子とも一緒にやるとか。要は、中学校に行く前にコミュニケーションが取れていたら、少しでもその障害が取れる可能性があるんです。できることとしては、一緒に何かゲートボール大会とか考えていて、そういうのはしてもいいかなと思っています。同時並行として、できることはやっていって、一方で合併となるとなかなか、いろんな人の合意形成を取っていかなくちゃいけないので、それはそれで進めていく。問題の解決手段はたくさんあると思うので、それはそれで気づいたときにもやっていけばいいかなと思っています。この会議を使って、PTA会長も出席されているので一緒に5年生とか6年生と、花火大会しようとか、そういうことかなと。

(委員)

そんな感じで、ただ宙ぶらりんになるのがかわいそうだなっていう。

(委員)

私のこどもが6年生で、去年5年生のときに林間学校というか、みんなで

そういうイベントがあるんですけどもそういうのがあって、それは春日町みんなで行っています。黒井の子らとも年に何回か交流会みたいなものがあるよというのも聞きますので学校とか教育委員会のほうもそういうところは考えてくださっているのかなと思います。

(山川委員長)

はい。ありがとうございます。そのほか、ございませんか。

意見がなければ、春日地域市立小学校統合検討委員会の地域部会という形で黒井地区と船城地区で黒井小学校と船城小学校の統合の検討委員会というのを立ち上げるという形でよろしいでしょうか。

(異議なし)

そういう形でよろしいですか。はい。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

そうしましたら、この検討委員会の中で黒井地区と船城地区で、まず方向性を検討していただくということになりました。前回この検討委員会の設置要綱を確認いただいておりますが、地域部会の位置づけをこの検討委員会の設置要綱の中で定めたいと考えております。この改正については、事務局に一任いただけたらと思います。

(山川委員長)

それは、丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会の設置要綱の地域部会版ということですか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

今のところ事務局で想定していますのは、この丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会設置要綱の中に2地区で検討していただく会の位置づけを定めたいと考えております。新しく地域部会の要綱を設置するのではなくて、この会議の設置要綱の中に組み込めたらと思っております。会議の名称についても事務局のほうで一任いただけたらと思います。

(委員)

地域部会はよろしいですけど、協議の範囲は、統合するかどうかの話だけですか。それをもっと掘り下げていくと細かいことがいっぱい出てくるので、そこまで協議するのであればめっちゃくちゃ時間がかかりますから、統合するかどうかだけの検討でよろしいか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

船城地区と黒井地区で話し合っていた中で、統合の方向性を決めていただく中で、冒頭で出た校名の話でありますとか、そういった話も統合を検討する上では出てくることになろうかとは思いますが。ただ、結論としては、まず2校の方向性を決めていただきたい。その上で、いろんな意見交換は必要だと思いますので、その検討内容も含めて全体会のほうで報告していただけたらと思います。

(委員)

先ほどの件でちょっとお伺いしたいことがあるんですけども、今の会議の流れの地域部会は、結局は統合するか、しないかということを黒井地区の方と相談する。それを踏まえて統合します、例えば、統合しますという結論を出すだけのものですか。それとも今おっしゃっていたように、統合が決まってからの準備委員会の段階で決めるような内容もそこで決めていくことになるんですか。

(足立教育総務課長)

準備委員会で協議する内容まで決めるのはなかなか難しいものがあるかなと思うんですが、ただ統合の是非を検討する上で、例えば、校名をどうするかだとか、校舎はどうするんだというような意見は出るのかなということは想定をします。ただ最終、実際に決定していくことについては、統合しないことになったら別ですけど、統合するという話になれば実際は準備委員会の

中で最終的に校名をどうするかとか、校舎をどうするかとかいうのは決定していくことになると思います。地域部会の中では是非の方向性を決めていただく。ただ、その話をする中でそういった意見もいろいろ出るのかなというふうに思います。

(委員)

(校名などは) あくまでも意見であって、結果とか、決定ではないですよ。決定というのは準備委員会でやるものですね。だから、それは統合っていうか、合併とかどういう形なのか分からないですけど、それを協議するためだけの地域部会っていう考え方で問題ないですね。

(足立教育総務課長)

決定いただく内容としては、統合の是非の方向性ということかと思います。

(委員)

言葉は簡単なんです。言葉は簡単なんですけど黒井と船城で、話し合うときに先ほど事務局が言ったように細かい話が出たときに、どんな話が出てくるのかいうたら、青垣と市島の協議の中で、ある程度教育委員会がそういう資料を持っているんじゃないですか。ホームページに載っているんですか。結局、どの項目を話し合うか分からない。

(委員)

それは準備委員会の話。

(委員)

そこまで話す内容も出てくると思う。

(山川委員長)

この検討委員会で「統合します」という決定が出れば、もう検討委員会じゃなくて準備委員会になります。今はまだ統合しますかという、ちょっとあやふやなところです。

(委員)

統合するか、しないかの方向性については統合検討委員会の地域部会で予備決定をします。その結論を統合検討委員会（全体会）に持ち上がって、そこで最終的にその意見を是とするのかどうかということを最終的に決定していただく。そこで決定していただくと準備委員会が立ち上がるということですね、少なくとも船城と黒井については。地域部会の中で、先ほど来からいろんな話がありましたけど、校名だとか、校舎だとか、いろんな意見が出るでしょうと、当然出るでしょうね。ただ、それについては結論を出す必要はないと思います。問題点としてピックアップしてあげておけばいい問題で、それは準備委員会が立ち上がった段階で話をするということでもいいと思います。

(委員)

P T Aも自治会も大変なことになるけど、まず一番重要なのは住民に対して説明をするに当たって、ある程度具体的な案として出していかないと住民に対する説明はできないと思うんです。その資料をどこから引っ張り出すんですか。それが一番問題なんです。

(委員)

先月に黒井小の方がアンケートされると言われたのでどんなアンケートがあるかなとネットで調べたりしたときに、揉める原因が校名をどうするか、それから校歌をどうするか、校名を変えたら校歌も変わります。校章も変わる。学校の位置も変わる、通学方法も変わる。ここで不安が出てきて反対する人がおったり、揉めたりするようなことで、まず校名をどうするか。位置についてはなかなか言い切れませんが、間に建てるのか、どちらかに行くのかみたいなことになると思うんですけども。校名は慣れ親しんだ学校の名前が、というところがあったりするので、要はそこをお互いの地区の方がどこまで歩み寄れるかというところの協議がいたら、それを最後アンケー

トされるのか、総会で決められるのかちょっと分かりませんが、まずは校名かなと思っております。

アンケートを採る中で、アンケートの例で「統合に反対ですか、賛成ですか、どちらでもないですか」みたいなアンケートをまずやるところもあるんですよ。それで後どうなるという話で、それで過半数が出たら終わりなのかみたいな話になるので。それは最終手段に取っておいて、まず話し合いとか、説明会の中で、校名をどうするか、それに伴って校歌、校章、学校の位置、通学方法が変わることについて、これは譲れん、みたいな話を互いに出し合って、ここでどうしましょうかみたいな形がついたときに方向が地域部会で決定するのかなというふうなことを思っています。

(委員)

確認ですけど、この地域部会の事務局はやっぱり教育委員会ですよ。ですね。だから議論で自治会長や代表の方が言われていたような資料を頂きたいと言えば、教育委員会から出していただけるわけですね、手持ちの資料があれば。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

協議に当たっての必要な資料は教育委員会から提供していきたいと思っています。

(委員)

はい、ありがとうございます。今、いろいろと心配をかけておるわけなんですけども、やはり黒井地区の方と船城地区の方とやはり顔を合わせて、今後この問題をどうするのかということからやはり話を、協議していった譲り合うところは譲って、やはり自分の意見を言いたいところは主張して、そのすり合わせがやはり必要じゃないかなと。今ここで、どういう問題があるだろう、こういう問題があるだろうというようなことも議論していただくのはありがたいんですけども、どういうそれが結論になるのかどうかは、それはやはり顔を合わせて協議していかなければ落ち着くところがどこになるのかいうようなことまで、話をここでしてもあまり意味がないんじゃないかなと思います。やはり地域の方は代表で進めていただいて、協議をしていかなければいけないと思うんですけども、その中で、いかにすり合わせていくか、どこを着地点に持っていくのか。それはやっぱり統合というのを前提にまず考えていただいて、黒井地区であれば統合するんやったらこういう条件や、ああいう条件やとか、船城地区はこういう条件や、ああいう条件や、ここはお願いしたいというようなすり合わせはやっぱりしていく会議になろうかと私は思います。その中でこういう資料を頂きたい、ああいう資料を頂きたいというのは教育委員会のほうで準備をしていただくと。まずそこを何回地域部会を開かなければならないのか分かりませんが、それはやはり、お互いの調整という形で進めていかなければ、やはり話が前に進まないんじゃないかなという思いで聞かせていただきました。

(山川委員長)

今、委員がおっしゃいましたように統合検討委員会の地域部会という形で進めていければと思いますので、そういう方向性で行きたいと思いますが、いかがですか。それで、よろしいでしょうか。

(異議なし)

はい。そしたら統合検討委員会の地域部会という形で設置させていただいて、教育委員会との打合せをして進めていきたいというふうに思います。またメンバー等も検討する余地があると思いますので、これは黒井地区、船城地区の皆さんと協議させていただいて、決めていきたいなというふうに思います。

全体として、春日地域全体としての方向性も出していかなきゃいけないので、また皆さん方のご意見を賜ればと思いますので、よろしくお願いします。

いなというふうに思います。

こんなところのまとめでよろしいでしょうか。ご意見ございませんか。

(委員)

部会のほうはそういう形で進めていただければありがたいんですけど、せっかく検討委員会が立ち上がっておりますので、春日地域の小学校の全体の検討、やはりそれはそれで本来、春日地域の小学校全体の在り方はどういうものやという基本構想というんですかね、そういうものだけでもやはりまとめていただいて、それが何年かかるか分かりませんが、やはりそういったものをここで明確に示しておくほうが、やはりこの会が立ち上がった意味があるんじゃないかなと。ただ黒井と船城地区の統合だけで結果こうなったということではなしに、やはり全体会のほうについても、基本構想といいますか、地域の基本構想というようなものをまとめていただいて、その一部が黒井、船城で、全体はこうなります、というようなまとめ方をしていただいたら非常に船城地区としてもありがたいなと。自治会長会で要望した意義があるんじゃないかなと思っております。

(委員)

今の委員の発言を聞いていて、私も思うんですけども、地域部会がどれぐらいの期間をかけて検討されるのか、ちょっと読めません。分かりませんし、その間、全体の統合検討委員会が中断するのか、いや月1ぐらいで持っていくようになるのか、その辺はちょっと分からないんですけども、委員が言われたとおり、青垣や市島と比べて、これからの教育を考える会が春日にはなかった分、この検討委員会、この場ですね、やっぱり春日の小学校はこれからどうあるべきかということを、いろんな地域性も抱えておりますので、考えていく機会にすべきではないかなと。地域部会も動きながら、一方では全体で春日の将来をどうしていくかという会にして、ある程度方向性を見出していったって、その一つに最初の船城と黒井のことがあると、乗っかってくるというような方向に持っていけないと。地域部会が動いている間、この検討委員会が中断するのかなと思ったんですけど、そうではないですね。

(山川委員長)

それはないです。

(委員)

ないですね。月一か、どうなるか分かりませんが定期的に開かれて、春日全体の小学校をどうしていくかという議論、話し合いを進めていく。ぜひ、そうしてほしいです。

(山川委員長)

はい。今、おっしゃるようにこの全体の、春日地域市立小学校全体の考えも、全体のことも考えながら進めていかなければいけないと思うので、皆さんのいろいろなご都合もありますけども定期的に開催して議論ができたというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいなとします。

(識見者)

会議の冒頭に委員から出ました資料3の青垣と市島、春日のことについていろいろ意見があって、今日のまとめは、ほぼ委員長にまとめていただいたので、参考で今までの私の記憶の範疇で話をさせてもらいたいと思うんですけども、ちょうど私も平成25年に青垣で校長していましたので、その時の青垣のことも経験させてもらいました。その後、市島も経験させてもらったんですが、どれもシナリオはありませんでした。シナリオはないです。その都度、その都度、悩みながらこうしよう、ああしようということで、こういうふうにしていこうと思ってそのとおりにならなかったのが統合に関する協議ではないかなという感想を持っております。

もう1点は、青垣の時は1校にするという、もうそれしか発想はなかったと僕は記憶しています。そのままずっと、いつするんや、どこでするんやと

いうふうになって物理的な校舎を建てるとかいう話も出て、こういうふうに進みました。その考えがあったので、その考えで市島もスタートした。ほぼ同じ時期、（青垣は）平成22年、（市島は）平成24年なので、ほぼ同じ時期にスタートしています。市島もスタートは1校という発想しかなかったと私は感じています。その中で1校、早期にという提言が出ました。

ところがフォーラム、委員が質問されましたが、フォーラムのときには私も出ていましたが、大きく2つの意見がありました。確かに、地域の方の総意というよりも、意見を言いたい、意見を持っておられる方のお声が確かにたくさんあったと思うんですけども、その中であったのは2つです。一つは、統合そのものに反対という意見。小人数でもいいじゃないか、統合そのものはやっぱりすべきじゃないという意見を言われる方と、もう一つは、いや、統合ということには一定理解があるんだけど1校にしなければいけないのかと。もともと市島の場合は、中学校もかつては2校あったというのがベースにひょっとしたらあったんじゃないか。それから地理的なことも、青垣と違って非常に国道を通して横に長い谷がいくつか入っているという、そういうのもあったのではないかな、様々な要件があったのではないかなと思います。もう一度そのあたりについて、統合するのかしらないのかをはっきりしようやということがあって、もう一回考え直そうということで立ち上がったのが統合検討委員会だと認識しております。そこで今あったように、統合すると決まりました。統合するけども、どういう形にするかについては統合準備委員会に任せようということで、非常にコンパクトに協議をされた。統合しようやという方向が決まったら、具体的なことは準備委員会に持っていくと。そんなイメージです。春日は、スタートから違うんです。発想として、1校作ろうというのが前面に出た形じゃなしに、まず船城からの要望で、船城がこういう状況で船城の子どもたちの教育環境を考えてやと、そこがスタートになっています。具体的に言いますと、今日の協議の結果もほとんど出ておると思うんですけども、まず黒井と船城で部会を開いて、そこで協議をしようよと。もう一つは、全体のことも考えていこうよという、こういう2本立てのスタイルになっている。これは、青垣はもちろんなかったし、市島もとっていない新たなスタイル。僕は、3つを経験させてもらって非常にこの春日のパターンというのは、目の前の子どもたちにとっても非常に効果が出るであろうし、それから5年後、10年後の春日の子どもたちにとっても、それは一定のいい効果が出てくるんじゃないかなと思います。進め方、それがシナリオどおりにいくかどうかは今からやってみないと分からないのはたくさんあるんですけども、この委員会のメンバーからいろいろ出された意見というのは、非常にいい方向に向いているなと思っております。ありがとうございました。

（山川委員長）

はい、ありがとうございます。

それではですね、全体の在り方につきましては、春日地域市立小学校統合検討委員会を定期的を開催ができたというふうに思います。

（足立教育総務課副課長兼企画総務係長）

今、委員長にまとめていただいたところですけども、この検討委員全体会の在り方について、事務局から補足させていただきたいと思います。

まず春日地域全体の方向性についても協議いただくということで、大変ありがたい機会だと思っております。まずは喫緊の課題としまして、船城小学校の在り方について船城地区と黒井地区で話し合ってください。このことについて、事務局としても注力していきたいと思っております。まずは、その課題が第一だと思いますので、この全体会の協議については若干ペースを落として、ちょっと月に一回の開催というのは現実的に難しいと考えておりますが、先ほどから意見がありましたように、春日全体の子どもたちの推移

	を確認していくタイミングとして、よい時期に全体会を開かせていただいて、またその中で、勉強会を持ちながら、春日全体の方向性を協議いただければと思います。
(山川委員長)	定期的とはどれくらいの開催になりますか。
(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)	船城の進捗具合を見て考えていきたいと思います。
(山川委員長)	中断せず継続ということでよろしいか。
(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)	検討委員会として中断ということではなく、開催の回数としましてペースを若干落とすということで、まだ黒井と船城の話がどうなっていくか分からないところもありますので、例えば、年に数回というのちょっと今、お答えしにくいところです。
(山川委員長)	全体のことについては、そういうふうな状況で、中断はないですけど年に1回なのか、2回なのかはちょっと不確定ということになります。よろしいでしょうか。そしたら一応、この会はこれで締めさせていただいたらいいですかね。
次第	4 次回の日程について
(山川委員長)	それでは、次回の日程について事務局からお願いします。
(足立教育総務課長)	次回の予定でございますが、今日のお話ではまず地域部会を今後進めていただくというところでございます。一旦、こちらで会場予約をさせていただいているのは、10月16日、17日について会場を押さえさせていただいているという状況でございます。黒井地区と船城地区の代表の方に集まっていただいて、そこで協議を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。
(山川委員長)	黒井地区と船城地区、メンバーの検討がありますね。このメンバーでいいですか。
(足立教育総務課長)	まずは黒井地区と船城地区のこのメンバーで集まっていたらと思います。全体会につきましては、また別途協議をさせていただきたいと思います。
(山川委員長)	次回の10月については、黒井地区と船城地区の委員にお集まりいただくということで、16日と17日、ご都合はいかがでしょうか。
(委員)	今のメンバーで、黒井地区と船城地区のメンバーで集まって協議をするんですけども、その時点で事務局から部会の設置要綱をぜひ出していただきたい、案を出していただきたいなど。その案を見て、今度は実際に協議する場に出てきてもらうメンバーを設定しないといけないと思います。お互い10人ずつとか、15人ずつとかいう、そういったことをしていけないといけないので、まず設置要綱の案を次回出していただければ。
(山川委員長)	事務局、それまでにできますね。会議までには委員に配付いただけたらと思います。資料は早めに出していただきたい。
(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)	設置要綱についてですが、あくまで設置要綱につきましては今ある検討委

員会の設置要綱の中に地域部会の位置づけをしたいと考えております。地域部会の人数などはそこに記載する予定はありません。部会の位置づけを明記したいとは思いますが今ある要綱の一部改正ということで考えております。

(委員)

今この要綱の改正をするのであれば、この検討委員会のメンバーでその改正が了とするのか、否とするのか決を採ってもらわないといけないのではないかな。

(足立教育総務課長)

この要綱につきましては、教育長が設置している要綱でございまして、もともとこの会で了承を得たものということではなくて、教育委員会で制定している要綱でございます。

(委員)

やっぱり具体的な人数などの明記がなかったら、具体的に動けない。というのは、地域部会はこのメンバーだけで話を進めていくわけにはいきませんよと。何名かお互いに出てきてもらって、黒井と船城の人が顔を合わせて協議をしていかないといけないことになってくると思うんですよ。ほんまはね。その基準を作ってもらわないと、船城から何人出す、黒井から何人出すという話になってくるんじゃないですか。

この現在の要綱も確か第1回の会議で一応、承認を得られたと思うんです。もうこれでやってくれよということではなしに、設置要綱としてはこれよりいいかというので、承認を取られたと思うんですけどね。

(足立教育総務課長)

この要綱については、承認ではなくて、報告をさせていただいたという状況でございます。今言われたご意見もありますので、今度、船城地区と黒井地区の委員に集まっていたときに、そういったことも相談をさせていただきたいと思います。今日、答えは出ませんけども、そのときにメンバーであるとか、このままいくのかどうかということも含めて、ご相談させていただきたいと思っています。

(山川委員長)

はい、そうしましたら次回は地域部会を開催しますので、黒井、船城地区の委員はよろしくお願ひしたいと思います。

全体の検討委員会の開催につきましては、また動きを見ながらご通知申し上げますのでよろしくお願いします。

以上で、本日の次第は終了いたしますが、最後に何か言い忘れたこととかありませんでしょうか。

はい、なければ終わりたいと思います。

(植木副委員長)

失礼いたします。副委員長をさせていただいております植木和也です。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき活発な意見をいただきありがとうございました。

方向性として、黒井と船城の地域部会をやるということが決まりました。今後は、地域部会が主導でやっていきますが、この全体の検討委員会もまだ継続で進んでいきます。また協議・審議していただくこともあると思いますので、日頃からいろんな各団体の会員であったり、いろんな地域の人から意見を吸い上げていただいて、次に集まったときには春日地域全体のことを考えられるように、よろしくお願いします。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。お疲れさまでした。